平成 28 年度　保護者研修会

H28.8.20(土)

講演　「子どもに絵本の楽しみを」
～　言葉の育ちと読書　～

講　師：大 谷　　朝　　氏
精華女子短期大学幼児保育学科講師

１．　子どもにとっての絵本の体験

絵本は、絵と言葉があるが、子どもにとっては、そばにいる人が言葉をつけてくれるものである。

↓

読んでもらって楽しいもの！
赤ちゃんにとって、絵本は紙。身近な大人が読んであげることで意味を持つ。
自分で字を読めるようになっても読んであげましょう。
（言葉を聞きながら、絵を見ることが一番の楽しみ）

２．　読み聞かせを通して子どもが体験できること

① 読んでくれる人との共有体験
信頼関係にある大人と楽しみを分かち合うことがコミュニケーションの基盤になる。

② 主人公と一体化して物語を体験すること
・喜びの共有
絵本の中の主人公の人生を経験すること（幸せな結末）＝満足して終わる

↓

「人生に対する保証感（希望感）」を味わう。（無意識の中で蓄積していく）

↓

誰でも出会う困難を乗り越えたり、避けたりして生き続けることにつながる。（「きっと、なんとかなる。大丈夫。」と思える）

・他の生命に親しみを感じ、それを尊ぶこと
他との体験の共有や喜びを分かち合い、自分の中に他の存在を得られる。
・自分を好きになること
主人公を好きになると、他者をも好きになり、他者との体験の共有から自分を好きになる。

↓

自己肯定感

③ 言葉の体験

・感覚を通した言葉の受容

日本語の響きと音の美しさ　→　小学校入学までに子どもは耳から言葉を聞く。

文字を知ったら、文字なしに言葉を理解できなくなる。

文字を知らない幼い頃だからこそ、言葉の響きや美しさを体験できる。

＊松井ただし氏の体験

縁側にいた時に雨が降ってきた。その雨を見た母が、「絹ごしの雨やね」とのことば。　体験と言葉が結びつき、雨に対するイメージが広がる。

・言葉の獲得

豊かな言葉の体験　→　考えること、感じることを豊かなものにする。

・自己を解放する体験

周囲の身近な人ではない人の考え方、感じ方の体験　→　読書へ

④ 模倣の体験

・自分が自分以外のものになりきることができる。

⑤ 絵の体験

・画家の感受性を通して世界を知ることができる。

絵　→　物語を語り、広げてくれる。

「３匹のやぎのがらがらどん」のトロル・・・自然の象徴（絵から感じられる）

「てぶくろ」・・・自分たちとは違うところで生活をしている人たちがいる

３．　読み聞かせをする時に

＊子どもの好きなものを手掛かりに選びましょう。

・動物

・乗り物

・昔話

・ファンタジー

・現実的な生活や出来事　等

＊無理せず、自然に子どもと一緒に楽しみましょう。

・子どもが落ち着いて聞ける時に、安心できるところで、一緒に絵を見ながらゆっくりと読みましょう。おうちの方が読み方について気にすることはありません。

・７分あれば、１冊読むことができるので、寝る前など時間を見つけて親子で楽しみましょう。

４．　お願い

① 感覚の体験（今、その子にとって一番したいこと、楽しいこと）もたっぷりとさせましょう。
② いくつになっても読み聞かせをしましょう。
小３までは読み聞かせを。まだ、文字を読んで理解することは難しく、読書離れにつながってしまう。
③ 大人にとっても喜びであるように、無理をしないで楽しむ時間を作りましょう。
（同じ絵本を繰り返し読むこと　→　楽しい体験を繰り返すこと）

※していただきたくないこと３つ
〇感想を聞く。
〇質問をする。
〇しつけをする。
絵本を客観的にみるようになり、楽しくなくなる。
読みっぱなしにしましょう。

◎子どもと一緒に絵本を楽しめるのは、ごく僅かな時間です。
子どもと絵本の楽しみを分かち合う体験を是非してみてください。
なにを読んでいいかわからない時は、園の先生に尋ねてみてください。